



たかはし みずお
高橋瑞男
(政凜会)

● 奥州市立衣川中学校グラウンド整備は ● 土地開発公社債権放棄責任は

質問 9月定例会にも質問しているが、工事不良による衣川中学校グラウンド手直し工事の進捗状況と完成時期はいつか。

教育委員長 11月に3回の入札を行った。一回目は11月8日不調、二回目は11月22日で全工事業者が辞退した。三回目は12月6日で落札となり本年度完成を目指す。

質問 9月定例会において「工事は手直し工事で予算は発生しない」と明言している。7月28日の完工式に工事関係者も出席の中で工事経過を説明し、その際も手直しを行うとの説明であり、そのことは業者も理解している。なぜ手直し工事に予算を計上するのか理解出来ない。

教育委員長 平成23年の完成を目指したが土質が悪かったり、雪や雨のため仕上りが悪かったので、今回は土質の改良も兼ね工事に万全を期す。

質問 繰越予算で工事を行うとされたが予算をつけたこと自体納得しない。どう説明するか。

教育委員長 年度内完成を目指す。

質問 土地開発公社の債権放棄額29億5950万円について、検証委員会の総括では、責任の追求までは触れていないが、市・議会・公社に厳しい指摘である。市長はどう考えるか。

市長 責任はある。

質問 審議した議員にも責任はある。市長も責任を取るべきではないか。

市長 これらについては、それぞれ個々が判断するものである。



手直し工事の衣川中学校グラウンド



おいかわ よしあき
及川善男
(日本共産党)

● 放射能除染や子どもの健康対策は 「4歳から15歳までの希望する子ども全員の 内部被ばく検査を実施する」

質問 日本共産党議員団は、放射能対策について毎議会取り上げ、さまざまな提言を行ってきた。昨年3月の東電福島第一原子力発電所の事故から1年9ヶ月になるが、福島原発からは今日も放射性セシウムなどの放射性物質が放出され続けている。このような中、当局における放射能汚染の問題が、市民にとっても行政にとっても、重い課題となっている。除染対策や子どもの健康対策、補償問題などについては。

市長 学校の校庭など67施設やスポーツ施設、公園、地区センターなどの除染を3月までに完了する。来年度は農林、商工、文化施設等の詳細調査と除染を実施する。現場保管できない側溝などの汚染土壌の仮置場は、近々住民説明会を開催し、住民合意を得たところから工事に着手する。4歳から15歳までの希望する子ども全員の内部被ばく検査を、3月末までに実施する。

質問 いま水沢区内1ヶ所で実施している農産物など食品検査を、放射線量が高い前沢区や衣川区でも計測できるように、検査機器を増やすべきではないか。

市長 前沢区や衣川区など、必要とされる地域の利便性を向上させるためにはどうしたらよいのか、検討させて欲しい。

質問 当局においても、今後汚染土壌の仮置場問題や賠償問題など長期にわたる課題がある。東電へ専門家の常駐を要求すべきではないか。

市長 東電の職員の常駐については、どのような方向がよいのか検討したい。



水沢区内の食品放射性物質測定所